

地域貢献について(地域コミュニティ活性化のための工夫)

地域コミュニティの活性化①

事業者や施設運営者主催のイベントにより地域の人々と交流を促進します

事例

主催:学校法人



スポーツ選手を招いた講演会

有名スポーツ選手やジャーナリストによる講演会を催し、国内外のスポーツ文化、スポーツ科学に関心を持たれている方の情報拠点を形づくりします。



医療系セミナー・講習会の開催

医療・健康・スポーツ・福祉の分野で活躍する理学療法士、柔道整復師、はり師・きゅう師の先生が集い、定期的にセミナーや講習会を催します。



オープンキャンパスでの体験授業

学校施設棟でのオープンキャンパスでは医療、スポーツ、トレーナー、語学分野の体験授業が無料で公開されます。



外国人との国際交流カフェ

ネイティブ教員が学生や高校生とふれ合う「イングリッシュ・カフェ」を不定期で開催。テーマはスポーツから健康まで様々です。

主催:スーパーマーケット運営者

食育イベント

●地域の小学生を対象に、不足しがちな野菜・果物を摂取する大切さとバランスの良い食生活を学ぶ場を提供します。



ママとベビーの交流会

●親子ふれあい遊びや、管理栄養士手作りのベビー向け離乳食やママ向けのハーブティ等の紹介・試食会を開催します。



シニア向け「健康セミナー」

●管理栄養士による「自宅ですぐに試せる健康レシピ」の紹介や試食会を開催します。



主催:保育・学童施設運営者

ママさん相談会

●育児についておしゃべりしたり、ワークショップを楽しんだり、大人も子どもも楽しめる交流会を開催します。同じ地域のママや親子と出会い仲よくなる機会をつくります。



主催:住宅管理組合、事業者

打ち水イベント

●ヒートアイランド抑制効果がある打ち水を、分譲住宅居住者を中心に、地域の人々にも参加してもらい緑日イベントとして開催します。地域の子供達の交流にもつながる有意義なイベントです。



防災イベント

●お子様もゲーム感覚で楽しめる防災訓練や、炊き出しイベントを実施。地域の人々が参加しやすい賑わいあるイベントを企画します。



年間集客数の想定 [計262.2万人]

●市立図書館
約47.45万人

●スーパーマーケット
約120万人

●学校施設棟
約7.5万人

●みんなで育てるライブラリー
約30万人

●分譲集合住宅
約54.75万人

●保育・学童施設
約2.5万人

イベントは「みんなで育てるライブラリー」「市立図書館(多目的スペース)」「にぎわい広場」等、様々な場所で開催していきます。

地域貢献について(地域コミュニティ活性化のための工夫)

地域コミュニティの活性化③

公開空地を拠点とし、地域の商店を活性化するマルシェを開催。にぎわいを地域全体に広げます

本敷地の公開空地で定期的に屋台やマルシェイベントを開催することで、多世代を誘引し、これまでにない賑わいを創ります

- 事業者と在阪のスタートアップ企業(※)が協業し、本計画の公開空地を開放した屋台・マルシェイベントを定期的に開催します。
- 将来、飲食店や店舗の開業を目指す人たちを、屋台・マルシェの出店者として十三エリアに誘引します。

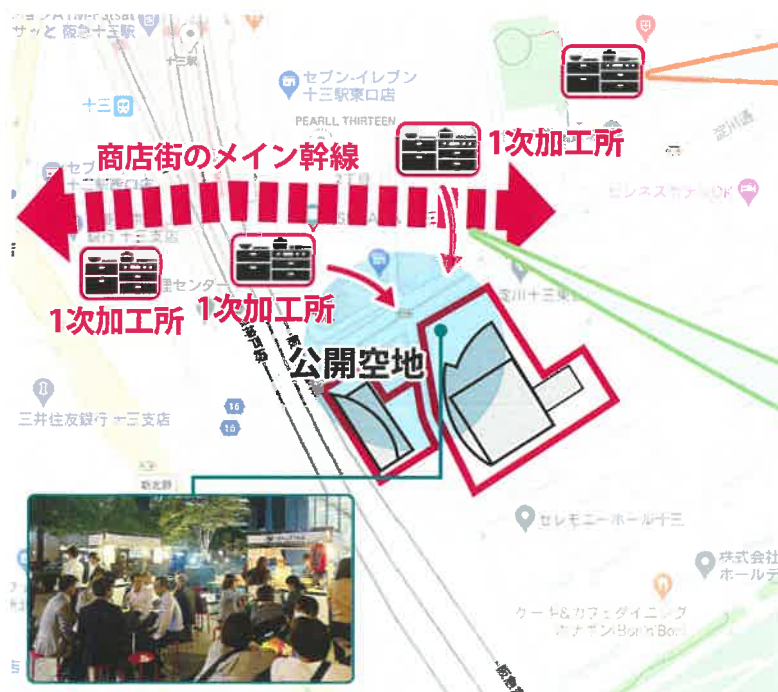


実際の実施事例(梅田)



実際の実施事例(京都)

十三エリアの飲食店舗との連携



屋台出店者は、商店街等の飲食店舗のキッチンを利用して、屋台ではできない食材の仕込み作業を行います。
 ※キッチンを出し出す店舗のアイドルタイム(休憩時間)を活用します。
 ※キッチン貸し出し店舗にはキッチン利用料が支払われます。



十三商店街と連携した屋台・マルシェイベントも開催可能です。



十三エリアを、新たな食のトレンド発信拠点へ

- 屋台・マルシェの出店は、出店者にとって低コスト・ローリスクで実現するため、飲食店開業を目指す人たちを効果的に誘引することができます。
- 屋台出店者をみんなで育て、将来の飲食店開業を支援することで、十三エリアが新たな食のトレンド発信拠点になります。
- 十三エリアの既存飲食店舗の、次の担い手創出にも一役買います。

出店者の声

これから飲食店を開業したいと思っている方は、ローリスクで営業を始められるのでとてもおすすめです。
 将来海外でお店を持ちたいので、屋台でフランクに海外の人と接することができるなど、実践を積みながら経営を学べるのは魅力ですね。

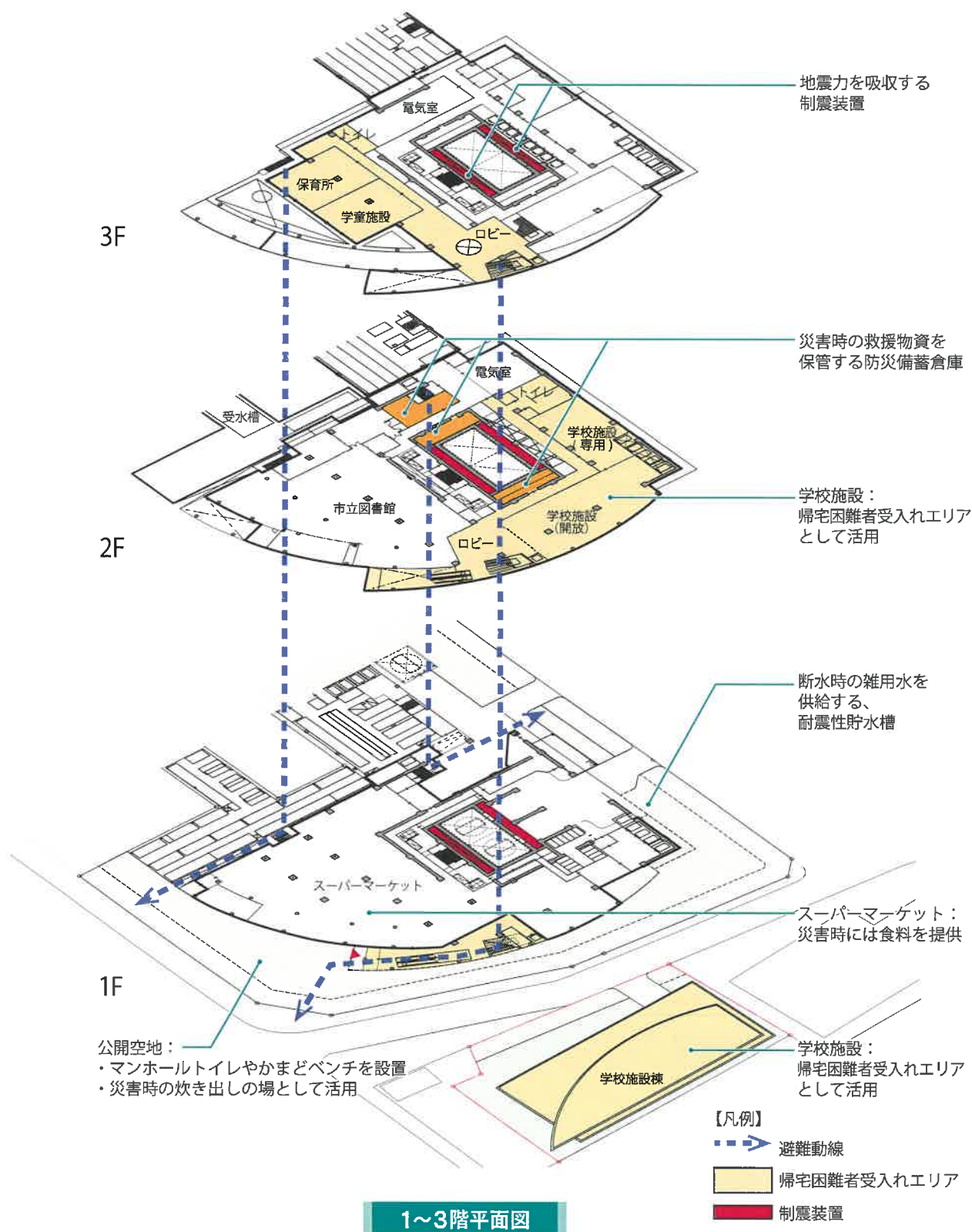


※在阪スタートアップ企業：出店場所の確保からキッチン(一次加工所)の提供、屋台の貸出販売まで、それらをサポートし出店に導くサービスの提供を行います。
 ※公開空地におけるイベント開催は行政協議を経て、実施します。

地域貢献について(地域防災に貢献できる機能)

地域防災・防犯 事業者が一体となって、地域の暮らしの安心と安全を守ります

本計画地周辺は駅や住宅地に近接しており、災害時には多くの帰宅困難者や一時避難者の発生が想定されます。あらゆる自然災害から地域の人々・建物を守り、被災後も機能を維持する施設計画を行うとともに、事業者が連携・支援する避難所機能や日常の防犯対策によって、地域の安心安全な拠点を実現します。



災害時に地域住民や帰宅困難者を受け入れる

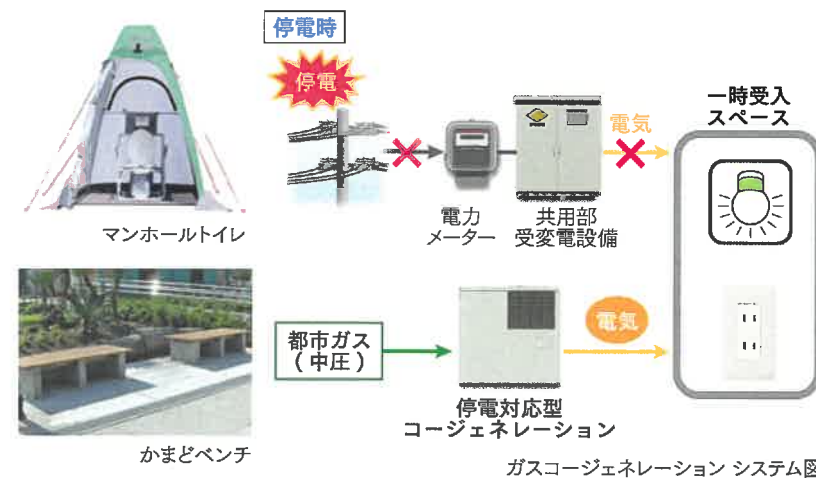
施設一体となって地域住民を支援

- 災害時には、学校施設、保育・学童施設を帰宅困難者等の一時受入スペースとして開放します。
- 防災備蓄倉庫を2階に設置し、救援物資や備蓄食品を保管します。災害時には帰宅困難者や地域住民に物資を開放します。
- 災害時にはスーパーマーケットの食料等を非常用の救援物資として提供します。



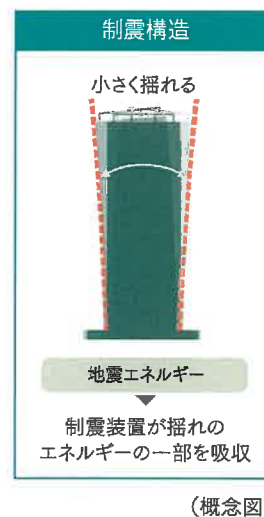
防災拠点機能の継続性

- 耐震化された中圧ガス供給によるガスコージェネレーションを常用し、電力供給が止まった際に、学校施設などの一時受入スペースへ電力を供給します。
- 太陽光パネルと非常用発電機を設け、停電時も非常用エレベーターなどを継続利用可能な計画とします。
- 耐震性貯水槽を設置し、断水時でも災害時の生活用水・消防用水を確保します。
- 公開空地にマンホールトイレやかまどベンチなどの防災設備を設置し、有事には炊き出しの場として開放します。



あらゆる災害から人々を守る

- 計画地周辺で想定される自然災害を踏まえ、建物上部は、制震構造を採用します。
- 建物内に設けた制震装置(オイルダンパー)により、地震力を吸収し、建物の振動と損傷を抑制することで、被災後も機能を維持する建築計画とします。
- 建物重量を、十分な地盤強度を持つ深さ約45m付近の支持層に杭で伝えます。また地表面付近の軟弱な地盤に対し、剛強な杭で、十分な耐震性能を確保します。
- 敷地周辺の最大水害レベル(淀川氾濫:3~5m)より上部に電気室や受水槽・ポンプ類を配置し、浸水から守ります。



地域の暮らしを見守る防犯を支援

分譲集合住宅が委託する警備会社が、通常は実施しない地域巡回警備も行います。地域巡回警備により、犯罪抑止を図り、地域の皆様に大きな安心を与えます。

- ①小・中学校の通学路周辺を考慮した巡回警備により、お子様への犯罪・事故を未然に予防します。
- ②地域の憩いの場である、「神社」「公園」の周辺を巡回警備することで犯罪を抑制します。

